

りんご剪定技術学ぶ

～板柳地区で剪定会～

1月に入り、りんごの剪定作業が本格化するに伴い、JA管内で剪定会が開かれている。

1月31日、板柳地区で行われた剪定会には約150人が集まり、平成30年産りんご「ふじ」の花芽着生状況や剪定の要点などを確認した。

30年産りんご「ふじ」の着生量は、花芽率66.7%、弱小芽率18.9%と適正量を確保できる見込み。自園地の花芽をよく観察し、結実枝を確保した上で弱小芽の多い枝や芽の生育が不揃いな枝を優先して切除するなど古い枝の更新に努めることを確認した。

りんご剪定士が普通栽培とわい化栽培で実演し、剪定のポイントを学んだ。



りんご剪定士の実演で学ぶ参加者

米荷受の変更点を確認

～北カントリーエレベーター説明会～

1月25～26日、北カントリーエレベーター稼働に伴う地区別説明会を黒石基幹支店、常盤基幹支店、田舎館基幹支店で開いた。生産者72人が集まり、稼働までのスケジュールを確認した。

荷受計画について、平川カントリーエレベーター同様に荷受け前後のトラック重量を測ることで粗重量を算出するトラックスケール方式を採用し、スムーズな荷受け体制になる。品種については、9月中旬に青天の霹靂、9月下旬につがるロマン（農薬節減米）、10月上旬につがるロマン（特別栽培米）の搬入を計画し、異種混入を回避するため品種切替時は荷受けラインの清掃を行う。飯米は10kgビニール袋に統一となることを確認した。

3月に北CE利用者連絡協議会の設立、8月に搬入説明会を予定し、安全かつ効率的な運営を目指す。



黒石基幹支店での説明会

農機具取扱店へJA農業資金を紹介

～農業資金説明会～

当JAと農林中央金庫青森支店は2月2日、平川市の東京会館で農業資金説明会を開いた。当JA管内の農機具取扱店の担当者12人が参加し、JA農業資金を周知した。

説明会では、アグリマイティ資金や農業近代化資金など当JAで取り扱う農業資金を紹介。また、JAバンク青森より平成30年1月から開始した新規就農応援資金と農業近代化資金保証料助成事業を説明した。終了後は、JAと農機具取扱店担当者間の情報交換会を行い、今後の取引を円滑に進め、農機具取扱店からお客さまにJA農業資金を進めてもらう体制を作った。



農機具取扱店に説明する担当者